

さくらまち

カトリック小金井教会ニュース

191号

2019年12月1日

アドベント・クランツ
司祭のことば
司祭紹介…竹内師、梅崎師
召命…稲川師

典礼暦年について
馬小舎の起源
教会ニュース & 信徒異動
クローズアップニュース



アドベント・クランツ*待降節のあいだに灯されるろうそく。
待降節第三主日は、ガウデーテ（喜び）の主日とよばれ、バラ色のろうそくがもちいられる。

光は闇の中で輝いていた

加藤豊

このタイトルですから、多くの方はこう思うでしょう。

ヨハネ福音書の話、あるいはクリスマスにちなんだ話だと。

たしかにクリスマスにかんすることを書こうと思いましたが、しかし、ここではかなり斜視的な内容にふれます。

にぎわいの陰の苦悩

もう2年前のことです。まだ、その頃は辻神父さまが、小金井と八王子を兼任しておられ、たいへんだったはずですが、その年のクリスマス、主の降誕夜半のミサで司式をされ、わたしもご一緒させていただきました。

じつは、その時の辻神父さまの説教が、今でも心に響いています。

神父さまは導入として、サイモンとガーファアンクルのある名曲の歌詞について語り、にぎやかなクリスマスだけではなく、にぎわいの陰に隠された事実として、苦悩を強いられている人たちのことを忘れてはならないという旨のお話をされました。

いついかなる時にも苦しみ悩む人がある

実際、クリスマスだからいつもと違うのは、表面的な現実だけであり、いついかなる時にも、また、この瞬間にも苦しみ悩む人が案外身近にいるというのが、わたしたちの隠された現実です。

それどころか、わたしたち自身がその該当者である場合も往々にしてあることです。

クリスマスの「光」

こんなことを考えてしまうのは、わたしの性格が暗いからでしょうか。じつはそれもほんとうです。ただし、わたしはクリスマスの「光」を見たいからこそ、今その「闇」を想起します。

ヨハネ福音書ではなく、マタイ福音書(2・16-18)



王であるキリスト、11月24日(日)

を思い浮かべてこれを書いています。

さて、ヘロデは占星術の学者たちにだまされたと知って、大いに怒った。そして、人を送り、学者たちに確かめておいた時期に基づいて、ベツレヘムとその周辺一帯にいた二歳以下の男の子を、一人残らず殺させた。こうして、預言者エレミヤを通して言われていたことが実現した。

「ラマで声が聞こえた。

激しく嘆き悲しむ声だ。

ラケルは子供のことで泣き、

慰めてもらおうともしない、

子供たちがもういないから。」

闇の深さは、「光」の価値をより高いものにします。

見わたすかぎり「光」だけのこの世なら、いったい誰が救われるでしょう。

闇の中に輝く光

それ以前に、それでは「救い」とは、なんなのでしょう。

毎日の生活は、暗いよりは明るいほうがいい、そんなこと当然です。

しかし、だからといって、明るいだけのクリスマスなんて、闇の中に輝く光に敏感であればあるほど、だれからも望まれてはいないのではないのでしょうか？

(カトリック小金井教会主任司祭)

召命は神秘

イエズス会 竹内^{おさむ}修一神父



竹内師、11月17日(日)

イエズス会に入会して30
年余、司祭に叙階されて23
年になります。現在、上智
大学で教えています。所属
は神学部ですが、さまざま
な学部の学生を相手にして
います。専門は倫理神学で
すが、キリスト教倫理、い

のちの倫理、性の倫理などを担当しています。

ときどき、召し出しについて聞かれることがあります。
正直、もっともこたえにくい質問です。というのは、あ
る程度のところまでは語れるのですが、その核心そのも
のは、言葉では語れないからです。

先日、あるカトリック高校の修養会に招かれました。
その時、一人の生徒から、「どうして神父さまになりたい
と思ったのですか」とたずねられました。それに対する
僕のこたえ——「正直、一度もなりたかったことは
ないかな…」。

まわりから、いっせいに、「え〜!」と
の驚声。「なりたくない」というよりも、「自分はそんな
器ではない」といった思いです。というのは、自分なり
に決心する前から、尊敬する神父さんたちを見ていたか
らです。「この人たちは、自分とは違う人々…」。

そのような時を過ごしながらも、最終的に、イエズス
会への入会を決意しました。しかし、決心したにもかか
わらず、なにか暗雲が上から自分を抑えつけるような息
苦しさを感じていました。当時、修練院は広島の高尾に
あり、そこで2年間の修練期を過ごしました。時ととも
に、どんよりとした重苦しさは、霧が晴れるように軽く
なっていました。

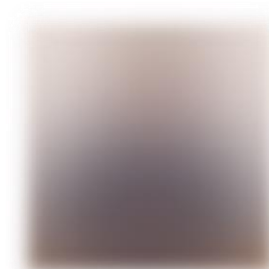
今でも、絶対的な自信はありません。それでも不思議
なことに、後悔の念をいだいたことは一度もないのです。
「召命は神秘だな」と思います。『エレミア書』の中に、
次のような言葉があります。「主の名を口にすまい／も
うその名によって語るまい、と思っても／主の言葉は、
わたしの心の中／骨の中に閉じ込められて／火のように
燃え上がります。押さえつけておこうとして／わたしは
疲れ果てました。わたしの負けです」(20・9)。

哲学科の学生だった時、ある授業の中で、先生——僕
が尊敬していた神父さんの一人です——が、こう言った

のです。「わたしたちのように生きているからといって、
神に近いわけではないんですね」——(?)、とその時は、
「いったいどういう意味だろう」と思ったのですが、時
とともに、その言葉の意味がわかるようになった気がし
ます。

福音を伝える

クラレチアン宣教会 梅崎^{たかいち}隆一神父



梅崎師、11月2日(土)

2016年、大阪から東京
に 異動になり、現在は修
道院 で、インド人の司祭
と2人 で杉並区方南町に
住んでいます。

わたしのおもな仕事は、
修道院の食事を作ったり、
掃除をしたりすることです。

司祭というよりは家事手伝いです。

加藤神父さまには、千葉の五井教会にいらっしゃった
頃からお世話になっております。

こんなわたしにも、親切に接してくださることを、と
ても感謝しています。現在は、小金井教会で木曜日の入
門講座を担当させていただいています。

クラレチアン宣教会は、1849年7月スペインで始
まった修道会です。修道会の目的は宣教です。クラレ
チア ン会の正式名称は「マリアの汚れなき御心の子た
ち宣教会」です。

この修道会を創立したクラレット神父(のちに大司
教)は、当時人々が望んでいた望みにこたえ、スペイン
の村から村に説教をしてまわります。

やがて彼は有名になり、多くの人が話を聴きに集まり
ました。クラレットの時代は、福音の聞き手がカトリッ
ク教会の信徒という状況でした。

しかし、2019年現在の日本の教会の事情は、当時
とちがいます。

そして宣教は、キリストの弟子であるすべての信徒が
おこなうことであり、クラレチアン会だけの専売特許で
はありません。

日本に住むすべての人にとって、福音が何であるのか
を知り、それをともに伝えていくことが、わたしたちの
使命であると考えます。

一粒会講話

召命

東京カトリック神学院副院長 稲川圭三神父

召命について

召命は英語で Calling(呼ぶ) といいます。Calling は「天職」とも訳されます。神さまがひとりひとりにそのように働くように命を与えられたものを天職といいます。神さまから与えられた召命は、永遠の命だと思います。ヨハネ福音書 3 章に「神はその独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が 1 人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」とあり、「私の父の命令は永遠の命である。」という言葉もあります。永遠の命を生きるために命が授けられているのです。

「圭三、おまえ神父になれ」

わたしは東京江東区で生まれました。家族は曾祖父の代からのカトリック信徒です。両親は墨田区本所教会の信者で、両親の結婚式をつかさどったのが下山正義神父さまです。

下山神父さまは、42 年間本所教会の主任司祭でした。私は 3 回、下山神父さまから「圭三、おまえ神父になれ」と言われて神父になりました。

最初は、小学校 1 年生時のミサが終わった後に言われました。次は小学校 3 年生時のミサが終わった後、「なるんだったらヨーロッパ旅行に連れて行ってやるぞ」とおまけが付きしました。

高校 2 年生の夏休みに進学先の学部を決めることになりましたが「神父さんになるのはもっと偉い人だ」とはっきりお断りしました。1 年浪人し、小学校の先生になろうと決めて千葉大学の小学校教員養成課程に入学して小学校教師になりました。

その 20 年間に下山神父さまは、神父になれとは言いませんでしたが、その時その時のわたしの一番の望みにめがけて何か言ってくださいました。

あとから考えると、下山神父さまをとおして神さまが働きかけてくださったと思っています。

3 回目に「圭三、おまえ神父になれ」と言われたのは、30 歳頃でした。20 年の歳月があったのは、途中でわたしが神父になることをお断りしたからです。

7 年ほど教員をやった後「良いことだったらするべきだ」と思い、神学校へ進学しました。

稲川師、10月27日（日）

神さまからの召命がどうあるかはっきりわかるものではないようです、わたしは下山神父さまから「圭三、おまえ神父になれ」と言われて、そのつど自分ができることをしてきました。

祈りのすすめ

人にもお勧めして祈っている 3 つの祈りです。

〈神さまがあなたと共におられます〉

イエスさまはインマヌエル（神が我々とともにおられる）と呼ばれます。神がともにおられるという目に見えない真実のとおりに生きた命がイエス・キリストです。そのお方がすべての人々のうちに復活して同じ身体の向きでいて下さる。

〈わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいます〉

〈聖霊を受けなさい。誰の罪でもあなたが赦せばその罪は赦されます〉

2・3 番めの祈りは、イエスさまご自身の言葉です。

赦さなければ赦されないままそれが残ってしまう、「赦せ」というのがイエスさまの言われることです。イエス・キリストと一緒にいてくださり、一つの身体となったそのお方の真実によって、わたしは同じ向きで口をひらく。わたしはこのように祈ることが召命だと思っています。

神学生には信者さんのために祈る人になってもらいたい。だからわたしは一人ひとりの背中にこれでもかこれでもかと祈っています。

神学生ひとりひとりに関わりのある目に見えない霊である皆さん、どうぞそのほんとうに大切なことを知り、あなたがたご自身で自分以外の人にも祈ってください。

（小金井教会、2019 年 10 月 27 日）

新しい典礼暦年、 おめでとうございます！

教会は、1年でひとまわりする4つの典礼季節に導かれ、イエス・キリストの生涯を思い起こし、祝っていきます。

待降節第1主日をもって、新しい典礼暦年が始まり、王であるキリストの祭日が最後の主日となります。これは、すべてのものがイエス・キリストで始まり、イエス・キリストで終わるという永遠の真実を象徴しています。「わたしは...初めであり、終わりである」（黙示録22・13）。

また、聖母マリアをはじめ、1年をとおして、定められた日に聖人の祝祭日が記念されています。

待降節——主の来臨にそなえます

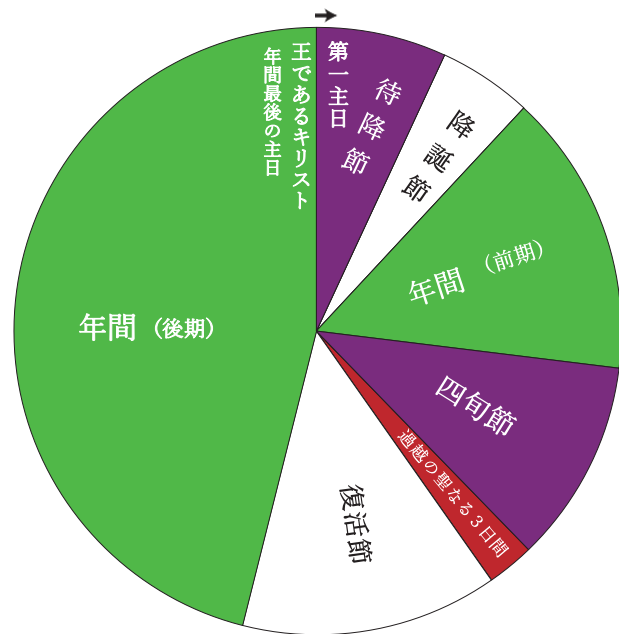
主の降誕の祭日の4主日前に始まり、主の降誕の祭日の「前晩の祈り」の前で終了します。待降節は二重の特質をもっています。キリストの最初の来臨を追憶する主の降誕の祭典のための準備期間であり、そして、その追憶をとおして、終末におけるキリストの第2の来臨の待望へと心に向ける期間でもあります。この2つの理由から、待降節は愛と喜びにつつまれた待望の季節です。

降誕節——主の誕生を祝います

主の降誕の祭日の「前晩の祈り」に始まり、主の洗礼の祝日まで続きます。主の降誕はたんなる1日の祝い事ではなく、「インマヌエル——神は我々と共におられる」（マタイ1・23）ことを祝う、真の喜びの季節です。なにかが起こったこと、キリストが生まれたということ、そして世界はもう同じではいられないことを、自分自身に深い思いを起こすべきお祝いです。

年間——主の教えを学び、み国を伝える

キリストの神秘の種々の面をとりたてて祝わない週間が、一年の周期の中で33ないし34週あります。こういう週間、また、とりわけ主日は、むしろキリストの神秘全体を追憶するものです。この期間は「年間」とよばれ、降誕節後から四旬節前の火曜日までの前期と、聖霊降臨の主日の次にくる月曜日から待降節第1主日の「前晩の祈り」までの後期があります。



四旬節——主のもっとも重要なみわざにそなえます

灰の水曜日に始まり、主の晩さんの夕べのミサの前まで続きます。四旬節は、復活の祭儀を準備するためにもうけられています。悔い改めの時期であり、霊的な成長、善をおこなう準備期間です。伝統的に、祈り、断食、施しに重点をおきます。これは、イエス・キリストのより良い信徒になるために、神の意志にこたえ、わたしたちの利己的な生き方をこぼむことに役立ちます。

聖週間・過越の聖なる3日間

四旬節第6主日となる受難の主日（枝の主日）から始まります。聖週間は救い主キリストのエルサレム入城に始まる受難の追憶に向けられています。キリストは人間に贖いをもたらし、神に完全な栄光を帰するわざを、とりわけその過越の神秘によって成就され、ご自分の死をもってわたしたちの死をうちくだき、復活をもってわたしたちに命をおあたえになりました。このため、主の受難と復活からなる過越の聖なる3日間は、全典礼暦年の頂点として輝きを放っています。

復活節——主の復活を祝います

復活の主日から聖霊降臨の主日にいたるまでの50日間は、その全体を一つの祝日として、また、より適切には「大いなる主日」として、歓喜に満ちて祝われます。

典礼暦年は、神に喜ばれる方法でわたしたちの信仰生活に秩序をあたえ、構造化することに役立ち、そしてわたしたちの心と生活に、神の平安をもたらします。（GT）

ご存知ですか？ 「イエスの降誕場面、馬小舎の起源」



馬小舎、キリストの降誕場面

イエスの降誕場面は、何世紀にもわたって人気のある待降節と降誕節の装飾であり、ある聖人が起源でした。

アシジの聖フランシスコは、1223年のクリスマス・イブに、最初のキリストの降誕場面を作ったと言われています。彼は、聖地への巡礼でベツレヘム洞窟の粗末なきゅう舎を訪れた後、そのような貧困、謙虚さ、単純さで世に生まれてこられた幼きイエスへの彼の献身が深まり、降誕場面の再現を思いついたといわれています。

聖フランシスコは、イタリアのグレッッチョの洞窟内でおこわれた特別な儀式とミサでキリストの降誕場面を再現し、仲間の修道士と町民とともにお祝いしました。彼は洞窟の中に、幼きイエスのベビーベッドとして使われる空きの飼い葉桶を設置し、その横に生きた牛とロバを入れ、最初の主の降誕の夜と思われるシーンを作りました。

のちに聖フランシスコは友人に、なぜキリストの降誕場面を作らなかったのかをこう話しました。「ベツレヘムで生まれた聖なる幼児のことを思い起こさせるなにかをしたい。彼が生まれたときの不便さ、彼が飼い葉桶に横たわったようす、そして牛とロバがどのようにそばに立っていたかを肉眼で見たい」

そのような視覚的方法をとおして、聖フランシスコはだれにもキリストがそのような貧困と単純さのなかで、この世に來られたことをより深く理解してもらいたかったのです。また同時に、彼は当時イタリアで蔓延していた貪欲と物質主義を克服するために、キリストの降誕場面を再現しようと思いついたともいわれています。

その後、聖フランシスコによる最初のクリスマスの夜の再現はとても人気をえたため、すぐにイタリアのすべての教会で独自のキリストの降誕場面の装飾をもつようになりました。やがて一般の家庭に広まり、現代では世俗の場所にも広まりました。

今日、キリストの降誕場面の馬小舎がないクリスマスを想像することは、もはや不可能になっています。(GT)

教会カレンダー

2019.12～2020.3

◆教会暦A年

●待降節

12月1日(日) 待

降節第一主日

油谷師 ミサ前後に告解の時間

9:00～ ミサ後(～12:00)

12月15日(日)

竹内師 ミサ前後に告解の時間

9:00～ ミサ後(～12:00)

●降誕節

12月24日(火)

18:00 夜半のミサ

20:00 夜半のミサ

12月25日(水)

6:30 早朝のミサ

14:00 日中のミサ

12月27日(金)

聖家族

12月31日(火)

ベネディクション

(聖体賛美式)19:00

1月1日(水)

神の母聖マリア

ミサ7:00/11:00

1月5日(日)

主の公現

1月12日(日)

主の洗礼

新成人の祝福

●年間

2月2日(日)

信徒大会

●四旬節

2月26日(水)

灰の水曜日

3月1日(日)

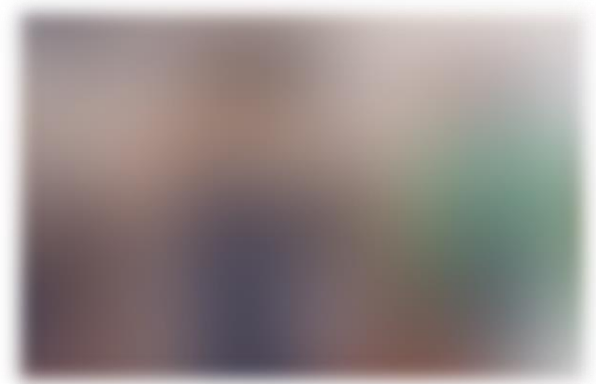
四旬節第一主日

■長寿の集い

9月8日（日）、長寿の集いの感謝のミサが、詩編朗唱、朗読、共同祈願、奉納については、77歳以上の方々による奉仕でおこなわれました。

ここに集うことのできなかった方々とともに祈りを捧げ、加藤神父さま、油谷神父さまから長寿の方々に病者の塗油が授けられました。

また、教皇フランシスコのメダイなどの記念品が贈られました。



長寿の集い感謝のミサ、病者の塗油、9月8日（日）

■ロザリオの祈りの集い

10月5日（土）午後2時、聖堂内マリア像の前に60人あまりが参加しました。

はじめに、加藤神父さまからロザリオの祈りは、生活のすべての場面で生きていること、信心の実践に有益で、臨終のときにいたるまでの慰めであるというお話と、「ロザリオの祈りの集い」の由来についての説明がありました。

神父さまのお言葉に従って、各連に神さまからの啓示であるイエス・キリストの生涯をたどる〈喜びの神秘〉、〈苦しみの神秘〉、〈栄の神秘〉、〈光の神秘〉を黙想しながら、神父さまの先唱に続きアヴェ・マリアの祈りをみなでくりかえし唱えることにより、



ロザリオの祈りの集い、10月5日（土）

祈りの深奥へ誘われるひと時をもつことができました。

■対外協力セール

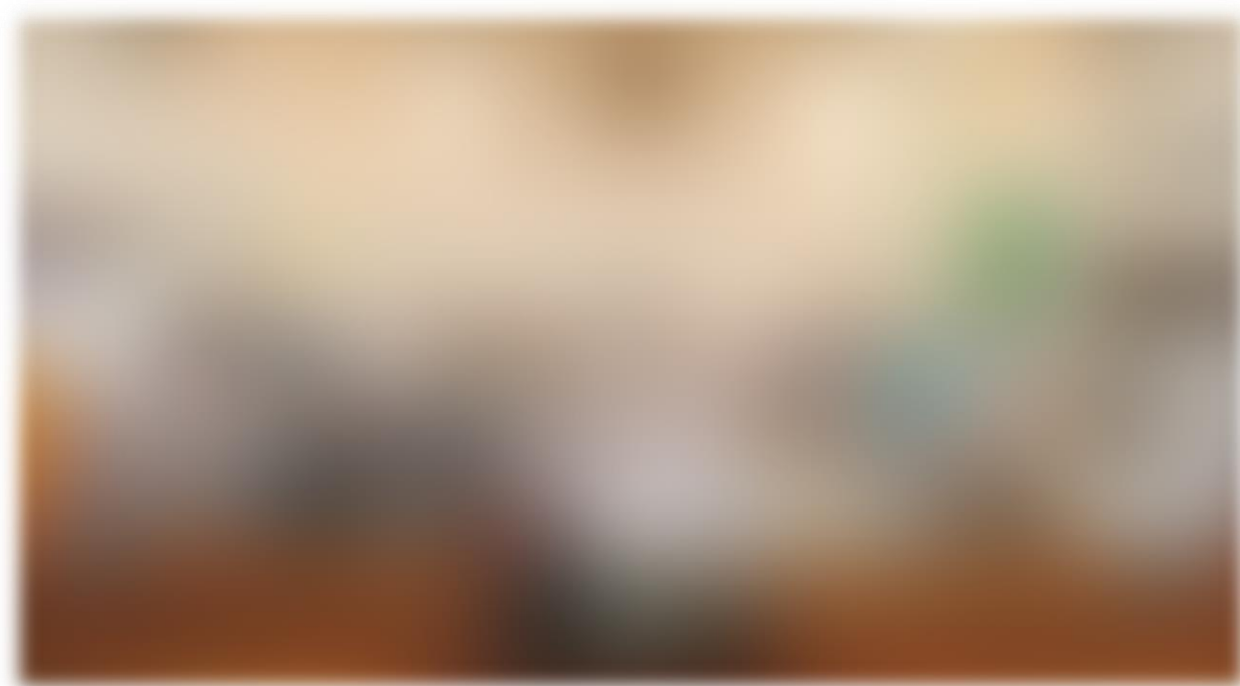
今年のヨハネ祭は、天候不順のため中止になりました。

準備された品物は、10月13日（日）に食品を中心に出品され、また11月10日（日）に対外協力セールで出品されました。

献品コーナー、修道院あちこち、手仕事の会、ワインコーナー、ヨハネ会支援センター、東北関連コーナー、スピリチュアルケア東京が参加しました。みなさまのご協力に感謝します。



対外協力セール、11月10日（日）



長寿の集い、2019年9月8日(日)



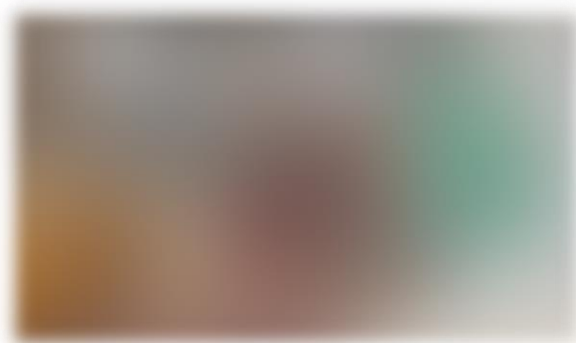
小金井教会共同追悼ミサ、11月3日(日)



東京教区合同追悼ミサ、あきる野教会、11月3日(日)



秋の墓参・納骨式、府中墓地、11月9日(土)



七五三の祝福、11月10日(日)

◆編集後記◆

◆ミサの時間◆

*主日のミサ 日曜日 午前7時
午前10時

*週日のミサ 月曜日～土曜日 午前6時30分